

ロービジョンケアを受けた患者の実態とケア内容に関する研究

1. 研究目的

2012年にロービジョン検査判断料が診療報酬に採用され、ロービジョンケア(以下LVC)を実施する医療機関は増加しています。当院アイセンターのロービジョンルームは1999年にアイセンター開設と同時に設けられ日本国内でも草創期からロービジョンケアを提供しこれまでも多くの患者さんに提供しています。本研究は診療報酬化された以降のLVC受診者の実態を調査し、LVC受信患者の実態(疾患、視機能、ニーズ)と提供したケア内容を調べるものです。このような多くの患者さんのデータを分析した研究は本邦ではみられず、この研究結果は眼科医療・ロービジョンケア・視覚リハビリテーションに大きく貢献できると考えます。

2. 研究内容と対象

研究対象となるのは2012年9月から2017年8月の5年間に杏林アイセンターでLVCを受診した患者さんです。診療記録から年齢、性別、疾患、視機能：視力・視野などの基本データ、LVC実施の際にお聞きした社会的背景(家族状況、就労の有無)、福祉的背景(障害者手帳の有無、介護保険、生活保護受給の有無)の実態、実際に実施したケア内容を分析します。さらに、長期フォローを提供した患者さん(概ね2年以上)を抽出し視機能の変化におけるケア内容の変化を検討します。

3. 収集したデータの取り扱い

データはすべて記号化され個人が特的できない形で加工され統計的に分析されます。したがって、研究結果は学会や論文の形で発表されますが、使用されるデータは個人を特定できるものではありません。

4. 同意の自由、同意撤回の自由

この研究は、通常の眼科診療で行われた検査データ、LVCで行われた内容の分析を行います。あらたに患者さんにご負担をおかけすることはありません。

もし、この研究に自分のデータを含めないでほしいというご希望がございましたら、下記の研究責任者までその旨をご連絡下さい。この研究に協力しなくても、今後の診療やLVCに何ら不利益になるようなことはありません。

—

5. 費用負担に関する事項

すでに実施したケアについての分析を行うもので、患者さんに新たな経済的負担を与えるものではありません。

6. 本研究についてご不明の点がありましたら、下記までご連絡下さい。 _

代表研究者 新井千賀子 杏林大学病院アイセンター

研究分担者 平形明人、岡田アナベルあやめ、井上真、厚東隆志、北善幸 鈴木裕美（杏林大学医学部眼科学教室）小田浩一（東京女子大学・杏林大学）、山崎菜都子 玉田俊介 尾形真樹（杏林大学病院アイセンター）

お問い合わせ先 住所 〒181-8611 _

東京都三鷹市新川6-20-2_杏林大学附属病院アイセンター

0422-47-5511（内線 5532 ロービジョンルーム） _